令和７年１１月５日

９年生保護者のみなさま

羽曳野市立はびきの埴生学園
校　長　東　　浩　朗

令和７年度「全国学力・学習状況調査」について

晩秋の候、保護者のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度実施いたしました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

令和７年度「全国学力・学習状況調査」分析結果

１．はじめに

全国の中学３年生（９年生）を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は４月１７日に国語・数学・理科が実施されました。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

既に配布しました個人結果と併せてご覧いただき、ご家庭でも本調査の結果についてお話していただきますよう、よろしくお願いいたします。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

２．結果の分析と今後の課題

（１）国語

【成果】

文章の文脈に即して漢字を正しく使えるか、物語の中の文章全体と部分の関係に注意して人物の設定を捉える問題などの正答率が、大阪府平均や全国平均を上回っていたものがいくつもあった。このことから、普段の授業から文章を読み取る能力が身についていることが伺える。また、選択肢を選ぶ問題の無解答率はすべて０％であったことから、意欲的に問題に取り組んでいる様子がわかる。

【課題】

自分の考えを根拠を持って書く、表現を工夫して書く、という問題の正答率が大阪府平均や全国平均より低い。また、記述式の問題の無解答率も他の問題より高いことから、考えや思いはあるもののどう書いていいのか分からない生徒が多いことが伺える。問題を解く前から書くことに対して苦手意識が強く、無解答率が増えるのだと考えられる。

【課題克服のために】

書くことに対する苦手意識をなくすために、日ごろからさらに、自分の考えを根拠をもって書く練習をする機会を多く設ける。自分の意見を書くだけではなく、仲間の意見を聞いて、自分の考えを再度見つめ直す時間もつくりたい。

作文や論説文などを書くときは、書き方の型を学んで、何度も書く練習をすることで、応用力をつけさせたい。また、資料やグラフを読み取る問題では、ただデータを読み取るだけではなく、自分の考えを持つ習慣をつけさせたい。

（２）数学

【成果】

半数近くの問題形式が短答式であり、知識技能を問われる問題に関しては他の形式や観点に比べ正答率が高い。授業内で計算等の演習問題を多くこなしていることから、基本的な計算技能については一定成果が出ていると考えられる。

また、定期テストの際には、長い文章から問題を考えるのに必要な情報を抜き出し、考察する問題にも取り組むようにしているので、思考力などを問われる問題にも挑戦し、解答を導こうともしている。

【課題】

①数学的知識として、「素数」や「x，y の増加量」、「相対度数」などの数学で用いる単語が何を意味しているのかが定着していないと感じる。そのために、「何をどう答えればよいのか」がわからず解答しているように思う。

②判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や、平行四辺形の性質をもとにして、証明する問題の無解答率が高かった。また全体的にも「思考・判断・表現」を問われる問題の正答率が低い。１つの問題に対して粘り強く考え抜くこと、それを合理的に表現することに課題があると考えられる。

【課題克服のために】

①普段の授業や演習問題の際にも、ひとつひとつ丁寧に確認を行いながら、全員が知識を定着できるように意識しながら展開させていく。また、こまめに確認テストや復習の演習時間を確保しながら、振り返りを行う。

②事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、

それに基づいて仮定から結論を導く推論の仮定を数学的に表現できる力が必要である。授業では、証明するための方針を立て、わかることを整理し、それに基づき仮定や必要な関係を根拠として見出す場面を設定していく。

（３）理科

【成果】

多くの問題において無解答率が０％であり、生徒が問題に前向きに取り組む姿勢がうかがえる。 また、日常生活を題材とした気体の性質に関する問題では正答率が高くなっており、総合的な学習と科学的思考を結び付けて考える力が育まれていることがわかる。 さらに、身近な生活と関連する問題においても、大阪府および全国平均を上回る結果が得られており、科学的な探究を通して自分の意見を述べる力が身についている。 これは、実験レポートなどで自分の考えを書く機会を積極的に取り入れた成果であると考えられる。

【課題】

全体的に基本的な知識の定着が不十分であることが課題として挙げられる。そのため、基礎知識をもとに思考を深めるような問題では正答率が低下している。特に、特定の分野や記述式の問題に対しては苦手意識が強く、無解答率も高くなっている。 さらに、長い問題文から必要な情報を取捨選択し、思考を要する問題においても正答率が低い傾向が見られる。

【課題克服のために】

理科に対する苦手意識を抱える生徒が少なくない中で、基礎的・基本的な知識の定着を図るためには、反復学習を重視した授業展開が求められる。特に、ミニテストやクイズ形式の活動を取り入れることで、生徒が達成感を得ながら前向きに学習に取り組む姿勢を育むことができるのではないかと考える。

また、動画や図解などの視覚教材を活用することで、抽象的な概念を具体的に捉えることが可能となり、理解の深化と知識の定着を促進する。視覚的な情報は、生徒の興味・関心を引き出すとともに、記憶の定着にも寄与するため、効果的な教材選定が重要である。

さらに、記述式問題への対応力を高めるためには、日常的に「書く」活動を授業に取り入れることが不可欠である。実験レポートや意見文など、自らの考えを言語化する機会を増やすことで、思考力や表現力の向上が期待できるのではないかと考える。加えて、選択肢付き記述や穴埋め式など、段階的な記述練習を導入することで、記述への苦手意識を軽減し、前向きに取り組める仕掛けを作る。

読解力および情報整理力の育成に向けては、文章から要点を抜き出す反復練習を行う活動が有効だと考えられる。問題文中から根拠を探し出す習慣を身につけることで、論理的な読解力が養われ、思考力を要する問題にも柔軟に対応できる

力が育成される。

これらの取り組みを通じて、生徒が理科の学習に対して自信を持ち、科学的な思考力や表現力を高めていくことが期待される。

３．生徒質問紙より

【成果】

成果としてまず、生徒が学校で安心して学習する環境を維持できている点が挙げられる。「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに対し、「あてはまる」と解答した生徒の割合が 63.4%であり、全国平均の 45.6%を 17.8 ポイントも上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、「あてはまる」との解答が 70.7%にものぼり、全国平均の 46.6%を 24.1 ポイントも上回っている。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という問いに対しても「あてはまる」と解答した生徒は 56.1%と全国平均の 31.9%を上回り、「友達関係に満足していますか」では、「あてはまる」が 75.6%と、全国平均の 56.4%を上回っている。学園全体として「集団づくり」を主として取り組んできていることで、生徒同士や先生との良好な信頼関係をつくり、そこからうまれる安心感が学校生活の楽しさにつながっていると考えられる。「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という問いに対して「あてはまる」が 61%と、全国平均の 45.5%を大きく引き離していることからも、集団づくりから、互いに尊重し協力して課題解決に向かえていることも見て取れる。

次に、生活習慣の改善が挙げられる。「朝食を毎日食べていますか」という問いに対して、「している」と解答した生徒の割合は、令和５年度では 66%と全国平均 78.6%を大きく下回っていた。この後令和６年度も改善していき、今年度は 82.9%と全国平均の 78.7%を上回る結果となった。家庭でも、生徒が楽しく充実した学園生活を過ごせるようにと、サポートいただけていることが考えられる。

【課題】

課題として、１人で学びを選択して能動的に学習する力を育てる点が挙げられる。「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という問いに対して、「２時間以上」と解答している生徒の割合は 19.6%であり、全国平均の 30.8%を下回っている。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という問いに対して、「２時間以上」と解答している生徒の割合は 7.3%で、全国平均の 13.8%を下回

っている。同時に両質問で、全くしないと解答した生徒の割合もそれぞれ 14.6%、29.3%と全国平均よりも 3.3 ポイント、5.2 ポイント高い値になっている。学校外での学習に価値を感じている状態ではあるが、自分で何を学習すればよいのか、どのように学習していけばいいのかがわからず学習時間が少ない状態になっていることが考えられる。また、「１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して、「週３回以上」と解答した生徒の割合が 29.3%と、全国平均の 53.2%を大きく下回っている。個別最適な学びを選択できるツールの一つであるタブレットを授業から上手に使用できていないことが考えられる。

読書活動が減っている点も挙げられる。語彙力や読解力や想像力を養い、学力の基盤をつくる上でも読書は重要であると考えられるが、「１日当たりどれくらいの時間、読書しますか」という問いに対し、「全くしない」と解答した生徒が 46.3%と全国平均 41.8%を上回っている。同時に「読書が好きですか」という質問に対して肯定的な解答をしている生徒の平均正答率は高くなっている。また他の設問から、テレビゲームをする時間や SNS や動画視聴をする時間が多くなってきていることが見取れるのもその要因の１つであると考えられるが、読書が魅力的で価値ある活動であることを生徒がより実感できるような仕掛けづくりが必要であると考えられる。

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問や、「１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して肯定的な解答をした生徒の平均正答率が高くなっていることから、自分自身の学習状況を振り返りながら必要な学習を選択する力をつけていく必要があると改めて感じた。

【課題克服のために】

学校での生活に肯定的な解答をしている生徒がどの質問でも高かったので、今後も「集団づくり」を主軸としながらも、「自分の考えや思いを書く力を育てる」取り組みを継続し、きめ細やかな指導を続いていく。

授業ではもちろん、学校外の学習でも自ら学習内容選択し、計画的にコツコツ進めるスキルなど、自律学習の「何をすべきか」を具体化し明確化して生徒や保護者にも伝えていく。同時に、「なぜこれを学ぶのか」をどの教科でも提示していくことや、本やＩＣＴや協働的な学習の中で見識を広げていく取り組みをふやすことで、自分自身のキャリア形成のために自律して学習に向かう動機をつくれる機会を増やしていきたい。

また、ICT を活用した授業を、主体的・対話的な学びをより深めるためのツールであることを意識して構築していく。ICT を活用することで、自分自身の学び

を深めたり広げたり、多様な意見や考えを共有しながら協働できることを実感できる時間をとっていきたい。教員全体もICTを活用した学習方法への見識を増やしていきたい。

学習であっても図書であっても生徒へ「やりなさい」だけで終わることなく、具体的な学習方法を示しながら、学習を１人ひとりに寄り添いながら進めることができるように、家庭とも協同していきたい。

４．おわりに

今回の全国学力・学習状況調査の分析より、成果や課題が見えてきました。特に課題については、子どもたちの実態に即した取り組みを進めて行くことで、本校の「めざす子ども像」につながっていくと考えております。

これからも子どもたち一人ひとりの成長を、私たち教職員とともに見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。